

中学校

平成 14 年 度

教育研究員研究報告書

特 別 活 動

東京都教職員研修センター

平成14年度

教育研究員名簿(特別活動)

区市町村名	学 校 名	氏 名
千代田	練成中学校	○ 恵方谷 雄二
大田	東調布中学校	中野 敏英
杉並	松溪中学校	恩田 智章
葛飾	綾瀬中学校	松村 亮
江戸川	二之江中学校	新沢 辰夫
八王子	南大沢中学校	◎ 大草 創平
小金井	小金井第一中学校	神田 哲男
羽村	羽村第二中学校	倉持 昇一

◎ 世話人 ○ 副世話人

(担当) 東京都教職員研修センター 指導主事 山田 悟志

目 次

I 研究主題

1 研究主題設定の理由	2
2 研究副主題設定の理由	3
3 研究の仮説	4
(1) 仮説の設定について	
(2) 仮説の検証について	

II 研究の内容

1 研究構想図	5
2 学級活動に構成的グループエンカウンターを取り入れることについて	6
3 構成的グループエンカウンターを取り入れた学級活動年間指導計画	8
4 構成的グループエンカウンターを取り入れた学級活動の実践	12
(1) 題材名	12
(2) 題材設定の理由	12
(3) 授業のねらい	12
(4) 学級の実態	12
(5) 指導の過程	13
(6) 評価	14
(7) 本時の展開例	15
(8) 指導資料	16
5 授業の考察	20
(1) 授業の振り返り	
(2) 構成的グループエンカウンターを取り入れた授業の考察	

III 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ	24
2 今後の課題	24

1 研究主題

望ましい集団活動を通して、人間としての生き方について自覚を深め、豊かな人間関係をはぐくむ特別活動の工夫

1 研究主題設定の理由

現在、中学校においては、不登校や学校不適應、校内外における暴力や非行など解決すべき生活指導上の問題が依然として存在する。これらの問題は学校教育にかかわりがあると同時に、生徒を取り巻く社会や家庭などの生育環境の急激な変化とのかかわりもある。環境の変化によって生じる人間関係の希薄化やコミュニケーションの不足、自己の喪失、規範意識の低下、他人を受容する態度がとれないことなどの状況は、青少年の共通の問題点と考えられる。

このような状況にあって、今後ますます複雑化することが予想される社会をたくましく生きていくためには、生徒一人一人が正しい判断力を身に付け、自らの生き方を自覚し、強い意思をもって、自己を正しく実現できる力が求められる。

本年度の研究者がとらえた最近の中学生の姿として、「指示されたことには行動できるが、自発的な行動がとれない」「人間関係には敏感だが寛容性に乏しい」「人間関係の広がりがない」などがあげられた。また、指導上の課題としては「個々の生徒理解が難しくなった」「学級での指導の充実や評価の仕方」などが出された。

このような生徒の状況に対して指導の改善をしていくためには、3年間を見通した学校全体での教育活動の見直しが必要である。中学校教育の中で、生徒に「人間としての生き方」を考えさせることや「集団や社会の一員としてのよりよい生活態度」を育成する教育活動は特別活動に位置付けられている。中学校学習指導要領「特別活動」の目標には、望ましい集団活動を通して「心身の調和のとれた発達と個性の伸長をはかる」「集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる」「人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とある。

そこで、本研究では特別活動の指導の中から、生徒・教師の学校生活の基盤である学級活動に視点をあて、生徒に学級活動を通して集団活動の在り方や自己の生き方について自覚を深めさせるとともに、教師の受容的な働きかけによって、教師と生徒、生徒同士の信頼関係を醸成し、豊かな人間関係をはぐくむことのできる学級活動の充実をねらうことが課題の解決につながると考えた。

生徒が中学校生活を通して、集団の一員としての自覚をもち、他人のよさに気付き、個人が認められる好ましい人間関係や連帯感をはぐくむ体験や活動をしながら、豊かな心を育てることをねらい上記の研究主題を設定した。

2 研究副主題設定の理由

研究副主題

生徒の自己理解や相互理解を深める学級活動の指導と評価の工夫を通して

中学生の時期には、親から精神的自立をしようとすると同時に、身体的にも変化することで、心理的な不安定感をもつ生徒がいる。中学生にとって、孤独感や心理的な不安定感を軽減する意味で重要になっているのが友達の存在である。生徒は互いに共通点や類似性のある友達と過ごす傾向がみられるなど、友達が自己を見つめるための鏡の役割をしているともいわれる。このような特徴がみられる中学生の時期にあって、孤独感や不安感を共有しながら、共に解決を図ろうと友達を通して自己を見つめる生徒も多くいる。生徒のこのような心情的な状態を踏まえ、中学校では好ましい人間関係づくりの視点から、尊敬、信頼、協力、共感、寛容などの態度の育成が、学級を母体として全教育活動を通して図られている。

学級は、教師の学習指導や生活指導を進めるための基本単位となる存在であるとともに、生徒一人一人が心理的に安定して帰属できる「心の居場所」としての生活環境でもある。そのため、生徒相互の好ましい人間関係や、教師と生徒の信頼関係に基づく温かい雰囲気がつくられた場所でなくてはならない。

学級活動では、担任が一人一人の生徒理解に基づいて、生徒自身の学校生活の振り返りや、課題解決に取り組めるように指導の改善をしているが、自己を正しく理解することが困難な生徒や集団生活になじめず学級で孤立する生徒もいる。また、最近の生徒の考えかたを把握したり、行動を理解したりすることを指導上の課題としている教師もみられる。

そこで、学級のもつべき本来の姿や指導上の課題を解決するための基本的な考え方についての見直しを行いながら、本研究では、学級活動の指導における生徒の自己理解の仕方や生徒同士、教師と生徒の相互理解の方法について追究し、学級活動の指導改善を図ることをねらい、上記研究副主題を設定した。

また、学級活動の評価については、本年度の研究員の聞き取りから、「学級活動の評価方法が分からない」、「指導に生かされた評価を実施していない」などの報告があった。これらの状況を改善するため、本研究では、上記の指導の改善と併せて、学級活動の評価の在り方について見直し、指導に生かすことのできる評価方法を検討することが必要であると考えた。そのため、学級活動を生徒自らが自己評価できる機会を設定した指導案をもとに、生徒と教師がそれぞれの活動を客観的に振り返るための評価資料を作成することとした。

評価規準の作成については、生徒が自ら考え、学んでいくという基本的な姿勢から「生きる力」をはぐくむという視点を重視した。更に、生徒一人一人の良い点や可能性、努力や意欲などの態度の評価を積極的に行うことのできる客観的で多面的な評価の工夫をねらい、上記の副研究主題を設定した。

3 研究の仮説

研究主題および研究副主題について研究を進めるに当たり、以下の仮説を立てた。

学級活動の指導に、構成的グループエンカウンターを取り入れることは、生徒一人一人が自己を知り、相互に認め合い、より豊かな人間関係をはぐくむというねらいを達成するために有効な方策となるであろう。

(1) 仮説の設定について

学級活動は、学習指導要領に「具体的な活動のねらいに沿って展開される生徒の自主的、実践的な活動である。」とある。そこで、仮説の設定に当たっては次の3点について注目することとした。

- ① 個々の生徒についての理解を深め、教師と生徒の信頼関係を基に指導を展開し、指導内容の特質に応じて、教師の適切な指導の下に、生徒の自主的・自発的な活動が助長されること。
- ② 学校における多様な集団の生活への生徒一人一人の適応や、そこでの自主的、実践的な活動についてもその助長を図ること。
- ③ 自主的、実践的な態度の育成と、人間としての生き方の自覚を深めて、自己を生かす能力を養わせること。

以上の視点と現在の生徒の実態を踏まえながら、学級活動の指導に構成的グループエンカウンターの特徴を生かし、その利点（後述 P 7）が十分に生かせるような指導計画と指導案を作成し、研究主題と研究副主題に迫ることとした。

(2) 仮説の検証について

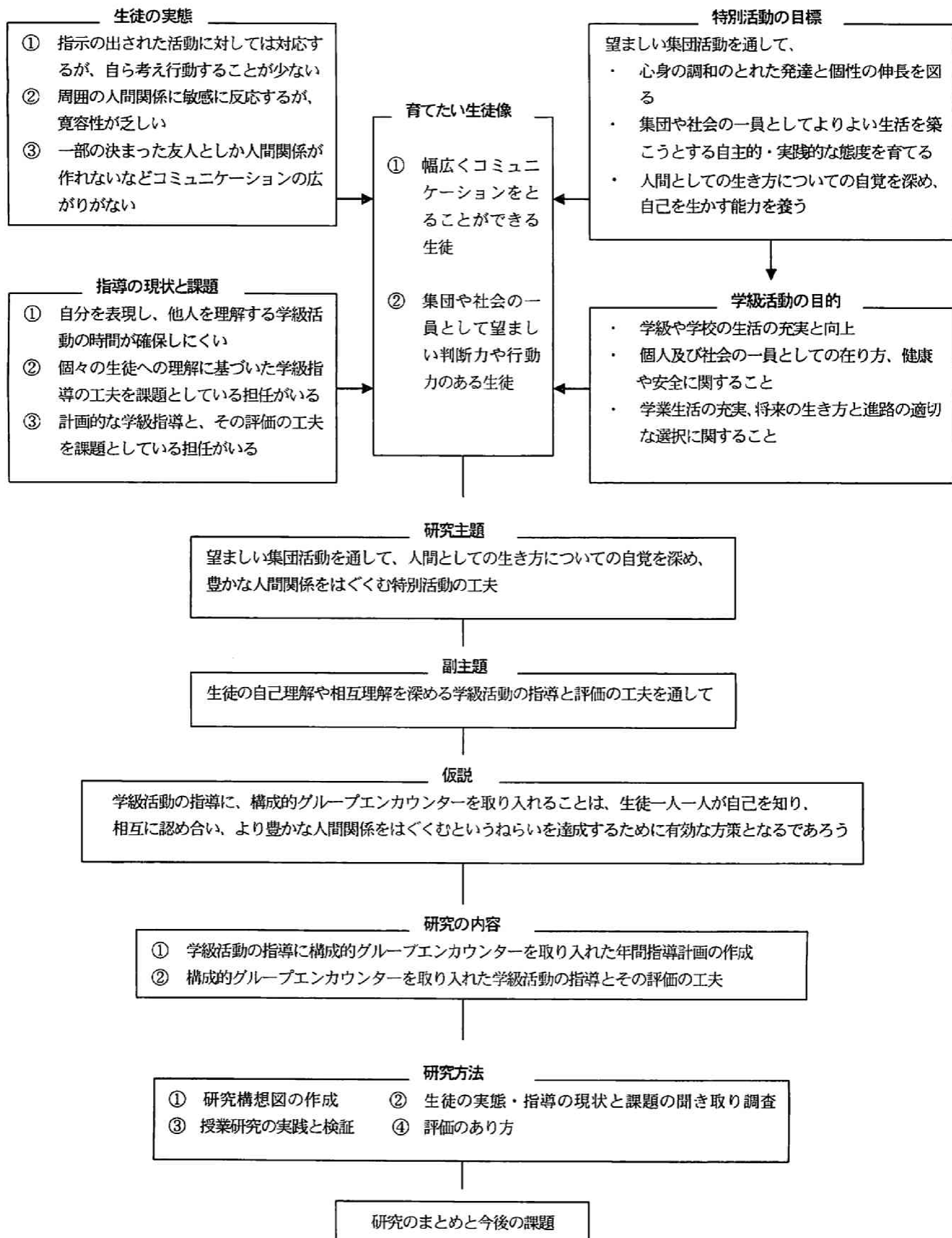
仮説を検証するに当たり、以下の2点について注目した。具体的に授業を実践し、ねらいを達成するための有効性を検証することとした。

- ① 生徒にとって学級が本音で語り合える場所であるとともに、「心の居場所」となることをねらい、教師の受容的な態度による生徒理解や個に応じた指導の下に、自己を正直に表現することやお互いに認め合える体験（構成的グループエンカウンター）を行い、生徒、教師それぞれが活動を振り返り、評価をする。
- ② 生徒の発達段階を考慮し、中学校3年間を見通した学級活動の年間指導計画を作成し、構成的グループエンカウンターを学級活動に取り入れる時期や回数、実施するエクササイズの内容について検討する。

上記の視点から、学級活動の指導に構成的グループエンカウンターを取り入れた授業の指導案を作成して授業を行い、授業後の評価によりその有効性を検証することとした。

II 研究の内容

1 研究構想図



2 学級活動に構成的グループエンカウンターを取り入れることについて

(1) 構成的グループエンカウンターのとらえ方

本研究部会では、構成的グループエンカウンターを次のようにとらえた。

- ① 「エンカウンター」とは、日本語訳では「出会い」という意味であるが、本研究では構成的グループエンカウンターにおいて「出会い」とは、単なる「見知らぬ人との初めての出会い」という意味だけではなく、「自己との未知なる部分との出会い」や、通常より深いレベルでの「他者との未知なる部分との出会い」ととらえた。
- ② 「構成的」とは、枠を与えるという意味であるが、本研究では「実施するための約束ごと」「実施するときのグループの人数」「グループのメンバーの構成」や「実施する時間の制限」をあらかじめ設定して実施することととらえた。
- ③ 本研究では、構成的グループエンカウンターは、本音を表現し合い、それを互いに認め合う体験ととらえ、この体験によって、自己や他者への気づきを深め、他者とともに生きる喜びや、自分に自信を持ち、自己の能力や可能性を高めることができるととらえた。

(2) 構成的グループエンカウンターを進め方について

構成的グループエンカウンターを学級活動で効果的に活用するために、下記の①から④の手順をとることとした。

- ① 身体や心をほぐすウォーミングアップ
- ② リーダー(教師)によるインストラクション
- ③ グループ活動などのエクササイズ
- ④ エクササイズを通して感じたことをふりかえり、みんなで分かち合うシェアリング

また、①から④の手順を実施する上で、次のことに留意することとした。

生徒が本音を表現し合ったり、お互いを認め合ったりする体験をねらうためには、はじめにゲーム性のあるウォーミングアップをすることで、心身ともに緊張感がほぐれて次の活動への導入がしやすくなる。授業や保護者会など、限られた時間内に目的を達成する必要がある場合には、本時のねらいややり方をわかりやすく説明する必要がある。活動の中心となるエクササイズでは、途中で評価を入れたりせず、ありのままの自分を表現したり、相手を受け入れる雰囲気づくりが大切である。エクササイズの実施後は、自分が感じたことを正直にまとめたり、整理したりして、相手や他の生徒の気づきにふれるためのシェアリングを必ず行う。生徒の新しい気づきが評価となると考えた。

(3) エクササイズを実施する上でのねらいと指導の工夫

本研究では、学級活動で構成的グループエンカウンターを実施した効果を得るために、下記の①から⑥を基本的なねらいとして、学級や生徒の実態に応じて重点とするねらいをかえながら指導の工夫をすることとした。

- | | |
|--------|----------|
| ① 自己理解 | ② 他者理解 |
| ③ 自己受容 | ④ 感受性の促進 |
| ⑤ 自己主張 | ⑥ 信頼体験 |

学級の様子や、生徒の発達段階に合わせて、学級活動の指導のねらいを的確に設定し、取り入れるエクササイズの内容や指導方法を変えることが大切である。ある学級で指導効果が認められたとしても、指導対象がかわった場合に、同じねらいや指導方法で同様にその効果が得られるとは限らない。①から⑥のねらいを達成するための留意点としては、まず自分自身の心情を理解して、他者への理解を深めるようにすることが指導展開の第一歩とし、他者と違う自分や、自分と違う他者を認め、受け入れられるようにすることを目指した。

次に、お互いに深い交流ができるような人間関係を築くために、自分の考えを正しく主張する力を育てることをねらうこととした。また、他者を信頼する活動を繰り返し行うことで、人間関係をより緊密にし、信頼感の確立に到達できると考えた。

学年や学級、グループなど実施する集団の大きさや、年齢など成長の違いなどによって、それぞれの目的に合わせたエクササイズを選ぶことが大切であるため、学級や生徒の実態を正しく把握しておくことは指導者にとって不可欠である。

(4) 構成的グループエンカウンターを学級活動などの指導に取り入れることの利点

- | |
|---|
| ① 生徒の発達段階に合わせて、生徒一人一人の個人の成長を図り、人間関係を深めさせることができる。 |
| ② 学級活動の指導では、生徒に身近に興味付けができ、意欲的に取り組ませることができる。 |
| ③ 学級活動のみならず、学年集会・学校行事のさまざまな場面において、それぞれの目的に適した題材（エクササイズ）を選ぶことができる。 |
| ④ 学年や学級の実態にそって題材（エクササイズ）を組みかえたり、ねらいをかえたりして、指導に広がりをもたせることができる。 |

生徒が自己や他者を理解したり、人間関係を深めたりするねらいを達成するためには、集団の中における自分の存在や役割に気づかせたりすることが大切である。本研究では、このようなねらいの指導においては、構成的グループエンカウンターはその長所が活かされる代表的な例であると考えた。

3 構成的グループエンカウンターを取り入れた学級活動年間指導計画

(1) 年間指導計画の作成に当たって

学級活動のねらいを十分に達成するためには、生徒一人一人がもつ夢や、学校生活への期待や希望をかなえ、また、生徒自身が抱えている問題や悩みが解消できるような活動の内容を適時、適切に計画する必要がある。

本研究では、各学年における指導内容にどのように構成的グループエンカウンターを取り入れることができ、実施したときに効果をあげることができるか考え、最適と考えられる題材(エクササイズ)を選択した。その後、各学年年間35週の授業時数を確保した上で、構成的グループエンカウンターを取り入れることができ、効果を上げるにふさわしい時間数と実施時期を検討した。

特に、生徒が人間関係に悩みがちになったり、学級への不適應感をもったりしがちな学期の始まりの時期や終わりの時期、また、逆に人間関係がより深まるきっかけとなる学校行事の実施時期に注目して、構成的グループエンカウンターを取り入れる学級活動の時期を探った。

また、年間の指導時数の設定に当たっては、中学校における学級活動の指導上、時間数の確保が必要とされる内容を押さえつつ、各エクササイズのねらいが達成できる時数を考えた。学級担任と生徒、生徒同士の信頼関係を築き、学校生活への適応や生活の向上を目指して、構成的グループエンカウンターを取り入れた学級活動の実施時期として、本研究では1・2学期の始まりと学校行事の開催時期に各1回、第3学期末に1回の実施がふさわしいと考えた。年間35時間のうち構成的グループエンカウンターを取り入れた学級活動の時間を5時間あてる年間指導計画を作成することとした。'

(2) 年間計画における指導段階

年間を通した指導を3段階に分けることにより、生徒の学習の習得の状況に即した指導ができるようにした。指導が適正に評価され、評価が次の指導に生かされるように、それぞれの指導段階とねらいは下記のとおりとした。

時期	指導段階	指導のねらい
4月 ～7月	交流・受容 (人間関係づくり)	新しい人間関係を作り、学級集団の向上を図る
9月 ～12月	自己理解・他者理解 (自己の開発)	生徒の相互理解を深め、学級集団のまとまりの度合いを高める
1月 ～3月	問題解決・自己表現 (成長の確認)	これまで培った信頼関係をもとに、自己を表現し、内面にある能力や可能性を発見する

(3) 構成的グループエンカウンターを取り入れた学級活動年間指導計画

学級活動 第1学年

年間35時間のうち構成的グループエンカウンターを取り入れた学級活動に5時間あてる

ねらい		・中学生としての自覚をもち、学校生活へよりよい適応を図る。 ・生徒一人一人が自己を知り、相互を認め合う豊かな人間関係を築く。		
	題材名	構成的グループエンカウンターの設定理由 (生徒の様子)	構成的グループエンカウンター的位置付け (実施エクササイズ・ねらい)	指導段階
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○入学式 ○自己紹介 ○中学校生活のガイダンス ○学級作り 委員・係の選出 クラス目標 給食・清掃・係分担 ○選択教科、総合的な学習の時間のガイダンス ○部活動のガイダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学後新しい環境に慣れるとともに、良好な人間関係をつくる。(少しずつ小集団を形成しているが、友達づくりが難しい生徒がでてくる時期) 	<p>★こんな私をよろしく</p> <p>入学の喜びを分かち合い、不安を解消するため、担任の自己開示をモデルとして自己紹介をする。(1時間)</p>	<p>交流・受容 (関係)</p> <p>新しい人間関係を作り、学級集団の向上を図る。</p>
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会の準備 ○学習習慣の確立 ○生徒総会への取り組み ○中間考査への取り組み ○安全指導・避難訓練 			
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会成功を目指して ○自分を知らう ○学習習慣の見直し ○相互理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や生徒会活動などの学校行事を通して、学級集団の雰囲気さをさらに向上する。(学級が組織され、クラスの友人関係が深まる時期) 	<p>★みんなで作ろう、よりよいクラス</p> <p>自分のクラスの良さに気づき、相互評価を通して学級の支持的風土を向上させる。クラスの課題について明らかにする中で、問題を互いに分かち合い、解決の方法を探る。(1時間)</p>	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○期末考査への取り組み ○1学期の学級生活 ○夏休みの生活設計 ○1学期の成長 ○球技大会の準備と参加 			
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○2学期の学級生活 ○学級作り ○私の将来 ○防災に対する知識 ○安全指導・避難訓練 ○遠足への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・友人のすばらしい点に共感し、相互に尊重できるようになる。(夏休み後で、生徒相互の関係がやや薄れた時期) 	<p>★夏休みの経験</p> <p>夏休み中にそれぞれが経験したことを発表し、みんなで共有化することで学級の仲間としての親近感を呼び戻し、2学期を円滑に始める。(1時間)</p>	<p>自己理解 ・自己表現 (開発)</p> <p>生徒の相互理解を深め、学級集団のまとまりの度合いを高める。</p>
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○学習習慣の向上 ○中間考査への取り組み ○生徒会活動への参加 ○文化祭への取り組み ○私の悩み 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒相互の人間関係をより深めさせ、学級の凝縮性を高める。(自分に自信がもてない生徒がでてくる時期) 	<p>★シフトしてみよう!</p> <p>自分の短所は、見方を変えれば長所であることを知り、自己肯定感を高める。自己肯定感の向上は人間関係づくりの上で大切な要素であり、互いを認め合う手がかりとなることを知る。(1時間)</p>	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○学習習慣の向上 ○期末考査への取り組み ○中学生の心と身体 			
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○2学期の反省 ○球技大会の準備と参加 ○冬休みの生活設計 			
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○新年の抱負 ○私の将来 			<p>問題解決 (成長)</p>
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスの親睦を図る ○学習習慣の向上 ○学年末考査への取り組み ○職業を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで培ってきた信頼関係をもとに、より豊かな人間関係を築く。(2年生への期待と不安が顕在化し、動揺する時期) 	<p>★気になる自画像</p> <p>学級内の人間関係づくりは級友同士の相互受容が中心である。肯定的な言葉の支持により、自尊心を高め、和やかな人間関係を作る。(1時間)</p>	<p>これまで培ってきた信頼感をもとに、自己の内面にある可能性を発見し、発見した自己を表現する。</p>
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○卒業式の準備と参加 ○1年間の学級生活と私 ○1年間の反省 ○進級するにあたって ○春休みの生活 			

ねらい		・中堅学年として学校での役割を受け継ぎ、向上を図る。 ・生徒一人一人が個性を発揮し、お互いを認め合うことのできる人間関係を築く。		
	題材名	構成的グループエンカウンターの設定理由 (生徒の様子)	構成的グループエンカウンター的位置付け (実施エクササイズ・ねらい)	指導段階
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介(進級の喜び) ○自分の目標と学級目標 ○学級作り <ul style="list-style-type: none"> 委員・係の選出 クラス目標 給食・清掃・係分担 ○選択教科、総合的な学習の時間のガイダンス ○部活動のガイダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ小集団を形成しているが、学級で孤立する生徒や人間関係を作ることの苦手な生徒への援助と良好なクラスの雰囲気を作るため構成的グループエンカウンターを設定する。(学級が変わり、学級内でのコミュニケーションがとりにくい時期) 	<p>★PR大作戦</p> <p>前年度、同じクラスだった友人から紹介してもらうことで、その生徒の肯定的な面を学級に知らせる。(1時間)</p>	<p>交流・受容(関係)</p> <p>新しい人間関係を作り、学級集団の向上を図る</p>
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会の準備 ○中間考査への取り組み ○学習計画の工夫と確立 ○生徒総会への取り組み ○安全指導・避難訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校行事の中で努力したり貢献したりしたことを認め合い、併せてリーダーの育成を促すため構成的グループエンカウンターを設定する。(学級組織が成立し行事に取り組みながら新しい人間関係をさらに発展させる時期) 	<p>★君はどこでヒーロー</p> <p>運動会などが終わった後、一人一人の生徒が活躍したり貢献したことを、他の生徒から評価されて自己有用感を得る。(1時間)</p>	<p>自己理解 ・自己表現(開発)</p> <p>生徒の相互理解を深め、学級集団のまとまりの度合いを高める。</p> <p>問題解決(成長)</p> <p>これまで培ってきた信頼感をもとに、自己の内面にある可能性を発見し、発見した自己を表現する。</p>
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会成功を目指して ○自分を知ろう ○学習習慣の見直し ○林間学校への取り組み ○相互理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・一学期の終わりの時期に、学級内の友人関係(人間関係)を見直し、そこで友人や友情について互いに考え直し、認め合う機会をつくるため構成的グループエンカウンターを設定する。(一学期を振り返って生徒の相互理解を深める時期) 	<p>★リアライズ</p> <p>他者に対する見方、考え方に気づき、相互に認め合うことで暖かい人間関係を作る。(1時間)</p>	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○期末考査への取り組み ○1学期の学級生活を振り返って ○夏休みの生活設計 ○1学期の成長と反省 ○林間学校への準備と実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱コンクールや文化祭などの学校行事を通して、一人一人が様々な力を発揮したことの発見をする。一人一人の生徒の活躍を讃え評価し、次の活動へのステップとするため、構成的グループエンカウンターを設定する。(他者を認め合い理解し、お互いの人間関係を発展させる) 	<p>★私たちの得た宝物</p> <p>各自がどのような役割を果たしたかを確認し、感動体験をわかちあう。(1時間)</p>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○2学期の学級生活 ○学級作り ○私の将来 ○防災に対する知識 ○安全指導・避難訓練 ○進路・職場体験への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生への期待と不安が顕在化し、動揺する生徒もである時期である。また、一年間のクラスの活動を振り返り、次年度への決意と新たな目標に向かって構成的グループエンカウンターを設定する。(一年間のまとめを様々な視点からみつめ最上級生としての在り方を考える時期) 	<p>★みんなで作ろうよりよいクラス</p> <p>自分のクラスよさに気づき、相互評価を通して学級の支持的風土を向上させる。クラスの課題について明らかにする中で、問題を互いに分かち合い、共感する。その結果、次なる成長のための目標を発見する。(1時間)</p>	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○学習習慣の向上 ○中間考査への取り組み ○生徒会活動への参加 ○学芸発表会への取り組み ○私の悩みや不安 			
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○学習習慣の向上 ○期末考査への取り組み ○中学生の心と身体 			
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○2学期の反省 ○球技大会の準備と参加 ○冬休みの生活設計 			
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○新年の抱負 ○私の将来 			
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○学習習慣の向上 ○学年末考査への取り組み ○進路・先輩の進路と私 			
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○卒業式の準備と参加 ○1年間の学級生活と私 ○1年間の反省 ○進級するにあたって ○春休みの生活 			

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年として学校生活の中心となり、積極的に活動する姿勢を図る。 ・生徒一人一人が自己の内面にある可能性を伸ばしながら、相互を高め合える豊かな人間関係を築く。 		
	題材名	構成的グループエンカウンターの設定理由 (生徒の様子)	構成的グループエンカウンター的位置付け (実施エクササイズ・ねらい)	指導段階
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介 (進級した喜び) ○自分の目標 ○学級組織 委員・係の選出 クラス目標 給食・清掃・係分担 ○選択教科、総合的な学習の時間のガイダンス ○部活動のガイダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学級で気持ちを新たに、意欲的に学習や学級活動に取り組ませたい。 (学級が変わり、元の学級の友達との関係が強く、コミュニケーションが取りづらい時期) 	<p>★みんなでリフレーミング</p> <p>自己肯定感の向上は人間関係づくりのうえで大きな要素である。自分の短所も見方を変えれば長所であることを知り、自己肯定感を高める。(1時間)</p>	<p>交流・受容 (関係)</p> <p>新しい人間関係を作り、学級集団の向上を図る。</p>
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○進路を考える ○運動会の準備 ○中間考査への取り組み ○学習計画の工夫 ○生徒総会への取り組み ○安全指導・避難訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生になって最初の進路学習。受験期におかれている自分自身を受け入れ、心の安定や現在の自分のあり方を見つめさせたい。 (自分の進路について、具体的に考え始める時期) 	<p>★私のものさし</p> <p>進路への思いや気持ちについてお互いに語り合い、悩みや不安について整理され解決に向かうようになる。(1時間)</p>	<p>自己理解 ・自己表現 (開発)</p> <p>生徒の相互理解を深め、学級集団のまとまりの度合いを高める。</p>
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○修学旅行の準備 ○自分の進路 			
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○期末考査への取り組み ○1学期の学級生活 ○夏休みの生活設計 ○1学期の成長と反省 ○球技大会の準備と参加 			
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○学級作り ○2学期の学級生活 ○防災に対する知識 ○安全指導・避難訓練 ○修学旅行の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・友人のすばらしい点に共感し、相互に尊重できるようにさせたい。 (夏休み後で、生徒の相互の関係がやや薄れた時期) 	<p>★夏休みの経験</p> <p>夏休みに体験したことを報告し合いお互いに共感し、学級の仲間としての親近感を呼び戻して、2学期のスタートをスムーズにする。(1時間)</p>	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○修学旅行を終えて ○中間考査への取り組み ○生徒会活動への参加 ○文化祭への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒相互の人間関係をより深めさせ、学級の資質を向上させたい。 (友達関係が固定化し、人間関係が狭く、自分と合わないと感じる人とは積極的にかかわろうとはしなくなりがちな時期) 	<p>★そんなあなたがステキ</p> <p>宿泊的 school 行事を通して、それまで気づかなかった友達の良い面を発見し、理解し合うことで人間関係を深める。(1時間)</p>	<p>問題解決 (成長)</p>
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○進路計画 ○期末考査への取り組み 			
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○進路相談 ○球技大会の準備と参加 ○2学期の反省 ○冬休みの生活設計 	<ul style="list-style-type: none"> ・受験を間近に控えた時期に、学習や進路に対する不安を少しでも取り除き、自分をコントロールする力を身につけさせたい。 (進路の決定が近づき、学習や将来への不安が増してくる時期) 	<p>★気になることをスッキリ</p> <p>心身のリラックスをはかりながら抱えている悩みや不安を整理する。スッキリし勉強に集中できるような対処法を知る。(1時間)</p>	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○進路の決定・受験の心構え ○3学期の目標 			<p>これまで培ってきた信頼感をもとに、自己の内面にある可能性を発見し、新たな自己を表現する。</p>
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○受験の準備 ○学年末考査への取り組み ○卒業に向けて 			
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○卒業をひかえて中学校生活のまとめ ○将来の設計 			

4 構成的グループエンカウンターを取り入れた学級活動の実践

<実践事例：A中学校>

(1) 題材名 「そんなあなたがステキ」(修学旅行中に見つけた友達や班員のよいところ)

① 意義

修学旅行をとおして得た人間関係を振り返り、友達のよさや新たな一面を発見する学級活動を行うことで、他者理解を行うとともに、他者からの言葉かけにより自己理解を深めることができる。

② 目的

友達に対して固定観念を抱きがちな時期であり、学級の人間関係の分散化がみられたりもする。修学旅行という級友との新たな触れ合いのきっかけを活用して、生徒の人間関係を深め、学級集団のまとまりの度合いを高める。

③ 指導の流れと活動内容

- ・ 修学旅行の班ごとにグループをつくる。
- ・ 旅行中の楽しかったことなどをまとめる。
- ・ 各自が、班員一人一人について、その人の良い面を用紙に記入する。
- ・ 自分が書いた部分を折って見えないようにして、次の人に用紙を回す。
- ・ 全員が書き終わったら、一斉に本人に手渡す。

(2) 題材設定の理由

中学校3年生になると、3年間に醸成した人間関係や友達に対する見方がある程度固定化している場合がある。強い絆で結ばれている友達関係がある一方、友達に対しての固定観念を抱いて、感覚が合いにくいと感じる個人やグループと、かかわりをもとうとしないなど、人間関係を広くもつことの苦手な生徒も見られる。また、生徒の中には進路に対する不安や悩みに対して、自己を正しく理解したり、表現したりできずに悩むこともある。

そのような時期にあって、学校生活や学級での人間関係を見直し、学級の雰囲気改善、向上していく学級指導が求められる。日常的な学校生活を離れ、宿泊を伴った学校行事をとおして、これまで気付かなかった友達の新しい一面を発見したり、新たな人間関係をつくったりした体験を振り返ることができる機会を捉え、構成的グループエンカウンターを取り入れた学級活動の時間を設定することとした。他者を正しく理解する活動をすることから、望ましい人間関係を形成していくことのできる態度や能力をはぐくみ、学級や学校生活の充実と向上につなげていくことをねらい、この題材を設定することとした。

(3) 授業のねらい

- ① 生徒に修学旅行という日常的な学校生活から離れた場所で班行動や寝食を共にした学習・生活体験を振り返らせ、友達のよさや今まで気づかなかった一面を発見したり、人間関係の深まりと広がり意識させる。

- ② 生徒に自分の考えや気持ちを級友に正直に伝えたり、発表したりする体験をさせ、他者からの言葉かけにより、他者理解から自己理解へと自己を考える援助をする。

(4) 学級の実態

明るく穏やかな生徒が多い。学級の雰囲気を知るくできる生徒もみられる。他者への思いやりや配慮する心が十分はぐくまれているとはいえないものの、友達同士お互いに力を合わせ、学級や班での活動を楽しく充実したものにしようとする意欲が育ちつつある。

(5) 指導の過程（指導計画2時間のうち 本時2時間目）

時間	生徒の活動
1	① 修学旅行を振り返り、「楽しかった思い出」や「クラスの友達についてのエピソード（友達との心とむやりとりや友達について新たに発見したこと、感動したこと、びっくりしたことなど）」を思い出し、各自が用紙に記入する。
2 （ 本 時 ）	② 班の中で回覧用紙を順に渡し、「修学旅行中に気づいたその人のよいところや新たな発見」について班員同士で記入し合う。その後、自分について書かれた回覧用紙を読み、感想や意見を発表し合う。 ----- ③ 「振り返りシート」に授業後の感想や意見を記入し、自分が感じたことや考えたことをまとめ、振り返る。自己理解を深める。

なお、授業者はあらかじめ本時に向けて以下の資料を準備し、生徒の記録が授業で効果的に使えるようにした。

<p>① 生徒が書いた修学旅行の思い出の中から「楽しかったこと」や「クラスの友達のエピソード」を数例選択し、プリントにまとめておく。(P.17参照)</p> <p>② 本時に使う記録用紙（以下の3種類）を作っておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のよいところや新たな発見を記入する用紙（回覧用紙）(P.18参照) ・ 班員の発言を記録する用紙 ・ 活動後の振り返りシート（授業後の感想や意見）(P.19参照)
--

(6) 評価

本時の評価規準の作成に当たっては、授業における具体的な活動内容を評価できるようにし、評価が次の指導に生かされるようにした。教師と生徒、および生徒相互の人間的な触れ合いを基に、生徒が自己の行動や言動の中から他者をどう理解し、相互理解を深めることができたかどうかを評価の視点とした。生徒が、評価を自分のものとするために教師は他者理解・自己理解をするための援助の言葉かけを行い、生徒は自己の行動や言動を振り返り、今後の自分のあるべき姿を考えさせるようにした。

また、集団内の人間関係を的確に把握するとともに、人間尊重の精神に基づいて生徒が望ましい人間関係を築くことができるように、指導の成果のみならず、指導の過程における生徒の努力や意欲などを取り上げて評価し、生徒のよさを多面的、総合的に評価するように心がけた。

そのために、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点で評価することを基本とし、平成13年度「東京の教育21」研究開発委員会指導資料を参考にして、評価規準を作成した。

特に、本時にかかわる評価については、「(8) 指導資料」の〈特別活動における評価の観点と評価規準〉に基づき、生徒の実態および本時の授業案から〈本時の評価の観点と評価規準〉を作成した。

〈本時の評価の観点と評価規準〉

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ア 本日の授業の内容に関心を持ち、意欲的に活動できたか。 ・・・1-1	ウ 友達のよいところに気付くことができたか。 ・・・2-2	オ 自分の考えを適切な文章や言葉で書いたり話したりして、相手に伝えることができたか。 ・・・1-3	キ 他の人に対する視点や理解の仕方が広がったか。 ・・・3-4
イ 友達のよいところを発見しようとする態度で活動できたか。 ・・・2-1	エ 書かれたものを読んだ本人の感想を聞いて、さらに考えを深めることができたか。 ・・・3-2	カ 他の人の発言をしっかりと聞くことができたか。 ・・・2-3	ク お互いの気持ちを伝えあうことの大切さが理解できたか。 ・・・2-4

表中の番号(1-1~3-4)は、P.16の〈特別活動における評価の観点と評価規準〉の番号を示している。

(7) 本時の展開例

場面	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
ウォーミングアップ (7分)	・修学旅行中に気付いた「クラスの友達のよいところ」のプリントを読む。	・プリントに紹介されているエピソードについて、班ごとに話し合い、誰についての記述か予想する。 ・誰であると思ったか、各班、発表する。 ・エピソードの解説をする。	・事前にプリントをつくる段階で、どんなエピソードを選択するか、エピソードの内容に十分配慮して選び出す。 (プリントに紹介するエピソードの記述については本人の了解を事前に得るなど人権上の配慮をする。)	ア
インストラクション (3分)	・本日の活動の仕方を知る。	・教師の説明と指示を聞く。 ・活動の仕方でわからない点があれば、質問する。	・活動内容を把握できるように説明し、生徒からの質問があれば答える。 ・ふざけた態度で不快感を与えることがないように、真剣な気持ちで取り組むよう、生徒に指示する。	ア
エクササイズ (20分)	・班員の、「修学旅行中に発見したよいところ」を再認識する。 ・他の人が気づいてくれた「自分のよいところ」を知る。	・自分以外の班員一人一人について、「修学旅行中に気づいたその人のよいところ」を思い出し、記入用紙に書く。 ・書いたら書いた面を折って見えないようにして、次の人に渡す。 ・班員全員が書き終わったところで、一斉に本人に渡す。 ・各自、自分について書かれたものを読む。	・他の人と相談したりしないで書くように指示をする。 ・自分が書いたものが次の人に見えないように折って渡す。 ・どうしても書けない時は、その人の日ごろのよいところを書くようにする。 ・班員全員が書き終わったら一斉に本人に渡すようにする。 ・机間指導しながら、生徒が気軽に意見を出せる雰囲気を作る。	イ ウ オ
シェアリング (15分)	・今の自分の気持ちが相手に伝わるように話す。 ・書かれた相手はどう思ったのかを知る。	・各班ごとに読んだ感想を話し合う。 ・班長は班員から出た感想や意見をまとめ発表する。	・他の人の発言、発表を聞き、相手と自分の気持ちを振り返るように指示する。	エ オ カ
まとめ (5分)	・今日の授業で思ったことや考えたこと、気付いたことを確認する。	・振り返りシートを記入する。	・自分の気持ちを正直に表現するように指示する。	キ ク

「評価」の欄の記号は、P.14の〈本時の評価の観点と評価規準〉の記号を示している。

(8) 指導資料

＜特別活動における評価の観点と評価規準＞

特別活動における評価規準を平成13年度「東京の教育21」研究開発委員会指導資料を参考に作成した。評価の内容は、「① 個人に関すること」「② 集団や社会に関すること」「③ 自己を生かす能力に関すること」とし、それぞれ「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点について規準を設定した。

① 個人に関すること

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
1-1 活動内容に関心をもち、課題解決に向けて、積極的に取り組んでいるか。	1-2 活動状況を正しく把握し、課題をよりよく解決する方法を考え、判断しているか。	1-3 課題解決に向けて自己の意見や考えを發表し、解決方法に創意工夫をしているか。	1-4 活動のねらいや内容を知り、自己の能力、適性を正しく理解し、活用しているか。

② 集団や社会に関すること

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
2-1 他の生徒と協力しながら活動し、進んで自己の役割を見つけ、責任を果たしているか。	2-2 他の生徒の意見や考えを正しく理解し、その場の状況を把握し、集団や社会に役立つことを考えているか。	2-3 ねらいに応じて、集団活動の方法や形態を工夫し、自己の考えをもとに活動しているか。	2-4 集団や社会の中で活動する意義を理解し、適切な行動をしているか。

③ 自己を生かす力に関すること

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
3-1 集団の一員としての自覚を深め、自己の能力を向上させようとしているか。	3-2 活動体験や集めた情報を生かし、自己の生き方について判断し、考えを深めているか。	3-3 自己の適性や能力を集団の中で生かし、伸長させながら幅広く活動しているか。	3-4 活動体験で学んだことを正しく理解し、自己の将来や生き方に活用する方法を理解しているか。

参考文献：平成13年度「東京の教育21」研究開発委員会指導資料

【生徒に配布し授業で活用した指導資料例】

① 1時間目に使用した修学旅行中の楽しい思い出やエピソードを記入するための用紙

修学旅行

3年組番

エピソードⅠ

氏名: _____

修学旅行中、あなたが見た・見つけた・気がついた[💡]
クラスメイトの 〇〇「みんなを明るく楽しめた出来事」
〇〇「ほんとに心^{こころ}和む行動や一言」
〇〇「心^{こころ}温まる行動や一言」 など。
『人』にまつわるエピソードを書いてください。

Aさん大丈夫？という謀^{まご}がうれしかった。
(少し熱^{あつ}がでてしまった時に)

〔Aさん〕

〔Bさん〕

心^{こころ}温まる行動は、鴨川でのんびり^{のんびり}のんびり^{のんびり}
おちついた^{おちついた}列車行動を計画した〇〇さんのおかげ。

〔Cさん〕

バスにおくれそうになった時や迷った時？に
〇〇さんが「大丈夫×2」と言って来て、安心^{あんしん}させてくれた。地図をみるのがうまい。

〔Dさん〕

新かん線の中、トラニフとか色々あそんで、
バリアゲームをした時、〇〇さんは強くて、
いつもハマってた。

〔Eさん〕

〇〇さんは実は頼^{たの}り存在だった



友達の行動を温かい視点で見ている記述が多く見られた。

この資料をもとにウォーミングアップで使用するプリントを作成した。

② 友達のよいところや新たな発見を知らせる回覧用紙

氏名	
6	実は、しっかり者だったりする。物の管理とか上手(は)だし。地図が似合う人 No.1 みたい。(笑) 何か班の中で副班長的存在。でもやっぱりおもしろい人だ。
5	あーいしおがりしてて助かりました。バスとかバスとかバスのあと人の心配とか遠くいりとか部屋の片づけとかもすごくやってもらいなあと思った。たが000にもなっちゃうせいのすいすいした。
4	修学旅行中はとてまじめで(る)自前学習のときは、おまじにけいかくをたててそんけい(ました。(れはなにもやってない)修学旅行中はありがとうございしました。
3	自前学習をちゃんとやっていて修学旅行が終わって班新聞の計画もちゃんとやってた
2	自前学習をオムよりおんばらた。おみやげをたくさん買っていて、家づく思いのいい人だ" と思った。
1	バスの乗り方がとか電車の線をちゃんと説明がててえらいと思う。計画たてる時をバキにんかん(?)が強く最後まで説明がしたので、しっかりしてると思った。
<p>↑ 一番めの人、この欄に書いてね。下の欄から順に書きます。</p>	

「しっかり者」、「とてもまじめ」、「積極的に」など、その人のよい面の発見に努力していることが記述から伺える。

友達のよいところは心の中で思っても日頃の会話ではなかなか出てこない。構成的グループエンカウンターを取り入れた活動をすることにより友達の内面に触れることができた。

③ 活動後の振り返りシート（授業後の感想や意見）

活動のふりかえりシート

3年 組 番 氏名

自分の評価

I. 次の1~8. それぞれについて、A~Dのうちあてはまるものに、○をつけてください。

1. 活動に関心を持ちすすんで参加していた
2. 仲間と協力して活動に取り組めた
3. 活動のねらいや内容を正しく理解していた
4. 班の仲間のよさを発見できた
5. 自分の考え・意見を発表できた
6. 活動に自分なりに工夫して取り組めた
7. 相手の意見をよく聞き、理解しようとした
8. 自分の気持ちや相手の気持ちを伝えあえた

A.思う	B.少し思う	C.あまり思わない	D.思わない
(A)	B	C	D
(A)	B	C	D
A	(B)	C	D
(A)	B	C	D
(A)	B	C	D
A	(B)	C	D
(A)	B	C	D
(A)	B	C	D

II. 次の(ア)~(エ)について書いてください。

(ア) 班の人たちからのメッセージを読んで、どう感じましたか？

少しはすかしたけれど、内心うれしいところもあった。
予想通りだった。

(イ) メッセージを書いた相手の人の反応を聞いて、どう感じましたか？

みんな良かったと思っていたようで、お互いに、色々自分自身のことを気付くことが出来たので、けっこう良い機会になったと思う。

(ウ) 今日の活動を終えて、授業全体をふりかえって思ったことや感じたことを書いてください。

今回は良い所だけだったけれど、人から見て思われている自分の事が分かって、良かった。こういうのも自分をもっと知る大事なことが第1歩になったと思った。

(エ) 今日のような授業のやり方はどうでしたか？ 他の題材でもやってみたいですか？

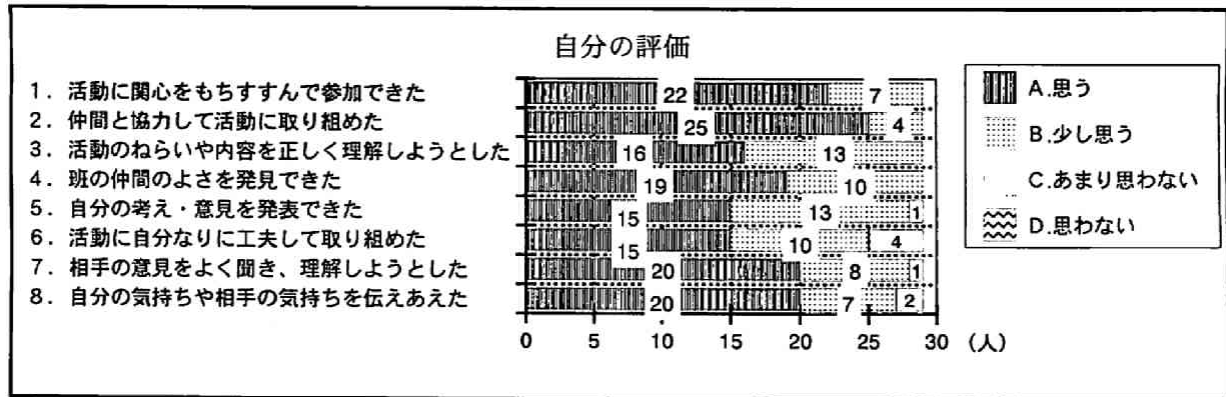
活動を振り返るに当たっては評価規準に基づいた質問項目を設定した。さらに生徒一人一人がどう感じたかを知るため記述欄を設けた。

5 授業の考察

(1) 授業の振り返り

① 振り返りシートの結果

自己評価集計結果（29名回答）



② 生徒の感想（自由記述）から

(7) 班の人たちからのメッセージを読んで、どう感じましたか？

- ・自分のよいところを探して、見つけてくれてすごく嬉しかった。(9)
- ・自分が思っていたものと少し違って意外だなと思った。(3)
- ・自分が認められているとわかってよかった。(3)
- ・少し恥ずかしかった。(4)

(イ) メッセージを書いた相手の人の反応を聞いて、どう感じましたか？

- ・班の人がみんな自分の書いたよいところを喜んでくれたみたいで、ほめることはよいことだと思った。
- ・嬉しかった。(3)

(ウ) 今日の活動を終えて、授業全体を振り返って思ったことや感じたことを書いてください。

- ・最初のクイズが面白かった。(4)
- ・たまにはこういうのもいいなと思った。ほほえましい。(2)
- ・班のよさがパワーアップしたという感じだった。
- ・今日の学活はとてつもなく楽しかった。今度はクラス全体でやってみたらどうでしょうか？(7)
- ・今回はよいところだったけど、人から見て思われている自分のことが分かってよかった。自分をもっと知る大事なことで、その第一歩になったと思った。

(エ) 今日のような授業のやり方はどうでしたか？ほかの題材でもやってみたいですか？

- ・今日のようなやり方はみんなの意見もわかってよかった。
- ・とても面白く勉強になりました。こういう授業がきっかけで友達と仲よくなれたりして、とてもよいと思った。
- ・すごく面白かった。(10)

③ 授業の結果

「修学旅行中に発見した班員のよいところ」という限定された内容なので、書くのに苦労していた生徒も見られた。生徒たちは「よいところはどこか？」とじっくり考えることで、友達のことを改めて見つめ直そうとしていた。自分の周囲にいる友達を見つめてみることで、「班員（自分の周囲にいる友達）を十分に理解した。」とまでは言えないものの、他者理解のきっかけになるというねらいは達成されたと考える。

授業後の生徒の感想から、友達のよさや今まで気付かなかった一面を発見し、書くことができた生徒は充実感を得ていることがわかった。生徒自身、友達のよいところを書こうとすることで友達に対する見方（他者理解）が深められた。



さらに、書かれた相手からは「こう思っていたくれた」、「こんなところに気付いてくれた」と喜ばれた。相手の思いを知ることで、相手に対する意識が変わる。自分を肯定的に見てくれる相手とは良好な人間関係が生まれる。書いた人と書かれた人の人間関係はより一層深められた。自分の気持ちや思いを伝え合うことの大切さをあらためて実感した。

自分のことについて記入された回覧用紙が、再び自分の手元に戻ってきたとき「早く見てみたいな」、「何が書いてあるのかな？」という表情・様子の生徒が多かった。

また、折られた用紙を開き、文を読んだときの一人ひとりの表情、反応が最も印象深かった。やや複雑な表情のほほえみや、ちょっとてれたような穏やかな笑顔、嬉しさがにじみ出るような表情が見られた。生徒たちは皆、自分が友達からどう見られているのか気になっており、友達は自分をどう思っているのか知りたいと考えている。

コミュニケーション能力の上達までは指導できなかったが、生徒同士がお互いに思っていることを伝え合う場面を設定することができた。生徒一人一人ひとりにとっては他者理解や自己理解を深められたというプラス面があり、集団としてはお互いの人間関係が深められたというプラス面があった。



(2) 構成的グループエンカウンターを取り入れた授業の考察

本時の授業に構成的グループエンカウンターを取り入れたことによる具体的な結果として

- ア ウォーミングアップにおいては、クラスの仲間に対して思っているイメージを自分の意見として発言し、他の生徒の意見を聞きながら話し合いができること。
- イ 修学旅行という行事の中で、班の仲間のよい所について考え、伝えることができること。
- ウ 班の仲間から自分のよさを認めてもらうことによる自己の確立と信頼関係が築かれること。
- エ 自分が班の仲間のよさを伝えた結果、喜んでもらえる姿を見て、仲間を思いやること。

などの充実感を生徒は味わえることができたと考えられる。

今回の授業で生徒は、構成的グループエンカウンターの流れであるウォーミングアップ、インストラクション、エクササイズ、そしてシェアリングを体験した。

・ウォーミングアップ

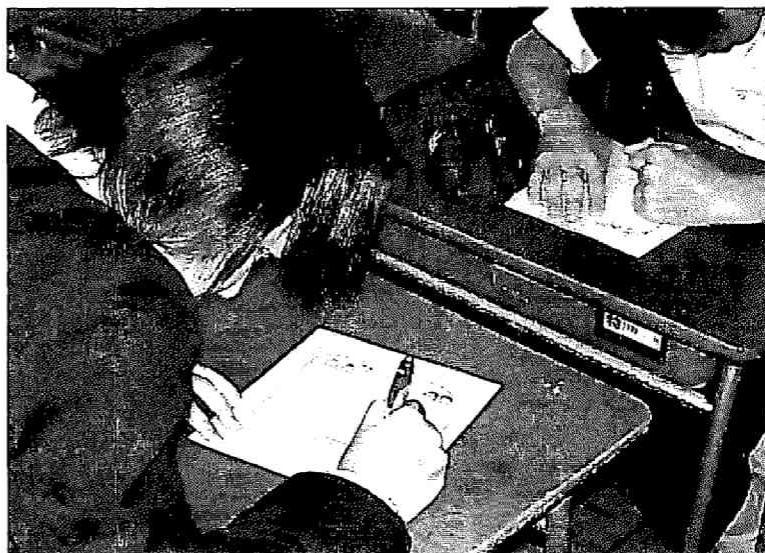
指導計画2時間のうち、1時間目に生徒が書いた「楽しかった思い出」や「クラスの友達についてのエピソード」の中から、生徒が興味・関心をひかれそうなものを選び、手書きの漫画で表したプリントを作成した。このプリントをウォーミングアップで使用し授業への導入とした。このウォーミングアップが非常に楽しくできたため、生徒も本題にスムーズに移行することができた。修学旅行中に実際に経験したエピソードを事前に厳選したので生徒は共通の話題として関わることができ、クラス内に良い雰囲気生まれた。



(ウォーミングアップに用いた授業者が作成した手書きの漫画)

・エクササイズ

エクササイズでは生徒たちが仲間のよさを回覧用紙に真剣に書き込む様子や、全員が一斉に自分のシートを開けるときの期待と不安の入り交じった表情が印象的であった。感想に「恥ずかしいけどうれしかった」、「誉めてくれてうれしかった」など、お互いに自分の新たな一面を発見でき、喜びや自信につながる結果になった。相手が喜ぶためにメッセージを送るだけでなく、素直に意外な一面の発見に努め、お互いに意見を交換し合い、最後にそれをまとめて班員に返すことによってお互いの人間関係が深められた。新たな他者理解、自己理解を促す機会となったと考えられる。



・シェアリング（振り返りシート）

振り返りシートから考察すると「班の仲間のよさを発見できたか」という項目では、Aの「思う」が19人、Bの「少し思う」が10人であり、クラス全員が仲間のよさを発見できたと考えられる。

「自分の気持ちや相手の気持ちを伝えあえた」という項目では、Aの「思う」が20人、Bの「少し思う」が7人とシェアリングでお互いの考えを伝えあうなどコミュニケーションの場面も多くもてたので、人間関係を深める大きな一因となった。

具体的な感想として「クラスの雰囲気よくなった」、「班のよさがパワーアップした」などとあるように、生徒が自分と相手の良さを認識することによって人間関係を深めることができたように思われる。

「他の題材でもやってみたいか？」という設問に対しては「やってみたい」という意見が多かったが、意見の中には「他の題材でやるのは少し怖い気もする」などの意見もあった。

本時は修学旅行直後の時期に実施されたが、構成的グループエンカウンターを活用した学級活動の指導に当たっては、指導者が学級や生徒の状況を把握した後、適切な題材の選定、ねらいの検討を行い、実施の時期を計画することがその成果を上げるために大切である。

Ⅲ 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

(1) 年間指導計画の作成から

学校行事の後に実施した構成的グループエンカウンターを取り入れた授業は、生徒の感想にもあるように、学級活動への参加意欲を向上させ、学級集団のまとまりの度合いを高めることができた。このことは指導計画作成に当たって、指導の適時性を考慮したことや生徒の発達段階を考慮した題材を活用したことなどがその理由と考えられる。構成的グループエンカウンターを取り入れた授業の効果を上げるためには、生徒の実態を踏まえ、3年間を見通した指導計画に位置付け、生徒の興味・関心、能力・適性の理解に基づいて実施することが重要であることが実証された。

(2) 授業実践から

授業者の感想からもうかがえるが、構成的グループエンカウンターは、他者理解や自己理解を深め、相互を認め合うことにより、より豊かな人間関係をはぐくむために有効な方策であり、適切な活用を図ることで、学級活動の指導の幅を広げることができた。お互いに相手のよさを伝えあうことは相互に肯定的な意識を高め、人間関係を深める意欲につながった。これは望ましい学級活動の基礎となり、幅広くコミュニケーションをとることや相手を思いやる気持ちを育てることにもつながると考えられる。

(3) 評価から

振り返りシートの活用により、学級活動の評価を行った。授業時の観察が基本となるが、生徒一人一人がどのように考え、どのように思ったかをまとめ、教師にとって、生徒理解の一助となる点で有効であった。また、指導案の中でそれぞれの学習活動に対する評価の観点と評価規準、を作成し、指導の過程における生徒の評価を行うこともできた。

2 今後の課題

(1) 年間指導計画作成上の課題

学級活動は、生徒会活動や学校行事、進路指導などの時間に充てられることが多いことを踏まえ、本研究では、構成的グループエンカウンターを取り入れた学級活動の年間指導時間数は各学年とも5時間とした。生徒自身による体験的な活動をより充実するためには、構成的グループエンカウンターを取り入れた学級活動の内容と適切な指導時数を年間指導計画から検討する必要がある。

(2) 授業実践の課題

生徒が自ら活動し、意欲をもてるような指導の工夫を考え、自己や他者を肯定する意識を高めていくことを目的としたが、問題点や欠点を指摘され不安を感じた生徒も見られた。心を開き人間関係を深めるという体験によって生徒が傷つくことのないよう、目的にそった話し合いや出会いの場面設定について指導の工夫や配慮の必要性があることが分かった。

(3) 評価の課題

研究員の所属校の教師への聞き取りから、「特別活動の評価の仕方がわからない」という指導上の課題が出された。本研究で取り上げた授業の評価は生徒の観察と振り返りシートを活用するという手法を用いたが、生徒の実態を踏まえて、評価の観点や規準を見直していくことや、生徒の変容を客観的に判断できる評価方法をさらに検討する必要がある。